チーム嶋村
ガバナー月信

Take Action for Rotary Future. Reach Out for World Peace.

第１２号／最終号　２０２３年６月発行

親愛なる会長のみなさん

こんにちは

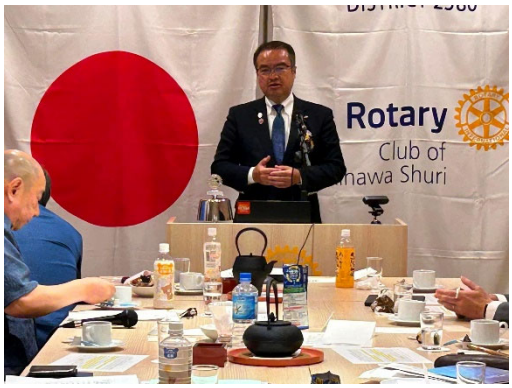
私たちの旅（年度）は、いかがでしたでしょうか？

新しい仲間はできましたでしょうか？

会長として、クラブとあなた自身に変化があり、成長したと思えるでしょうか？

大切なことは、元気なクラブづくりに最後まで邁進するハートであると信じています。残り 1 か月もロータリーに夢を持ち、「奉仕の理念」を携えて元気に走り抜けましょう！

１．地区の概況について



地区内クラブ数は、1 月 26 日、RI に加盟認証された沖縄首里 RC を加えて 71 クラブになりました。3 月末現在の会員数は 2,939 名、昨年 7 月 1 日より 108 名の増加です。その内、女性会員数は 260 名、割合は 8.84 パーセントになっています。

本年度は、入会者数の目標を定めることはせずに、「ロータリーは人を育て向上させる場」の認識を高めて、会員基盤の向上を図り、会員増強につなげることを、地区運営方針の一つに掲げてきました。地区内会員数の増加という結果は、早い段階からの研修により会長になる覚悟を決め、ロータリーを素直な心で学び、元気なクラブづくりに合わせた会員増強を進めた会長のみなさんのおかげです。

多くのクラブでロータリーの仲間を増やしていただいたことは、ロータリーを育てる要因となり、新しいロータリーの変化への可能性にもつながると信じています。

２．居心地の良いクラブになっていますか？

ジェニファー・ジョーンズ RI 会長は、「会員にとっての心地良さと配慮」が大切であると RI 会長テーマの発表時より掲げています。会長のみなさんは、この 11 か月、会長として「会員にとっての心地良さと配慮」のために真摯に取り組まれたことでしょう。では、昨年 7 月に比べて会員のみなさんは、クラブの例会を楽しんでいますでしょうか？　一度、例会の出席率を調べてみていただきたいです。もしも昨年 7 月より例会の出席率が下がっていれば、要注意です。本年度末に退会を考えているかもしれません。退会届が出そうであれば、その会員と対話する時間を作るようにしていただきです。退会理由の中に、クラブの検討すべき事項や未来のクラブの方向性を考えるヒントがあると思います。クラブはいつも動いています。クラブの現状分析と会員満足度の確認をお願いします。

３．思い出に残る奉仕活動はできましたか？

ジェニファー・ジョーンズ RI 会長は、「(会員の) 積極的参加こそが会員の維持に重要」であり、「会員の参加を促すための適切な「部品」を見つける」ことが役員、委員の役割とも掲げています。本年度チーム嶋村では、参加型の奉仕活動とともに「環境保全クリーン活動」「世界ポリオデー2580」「アースデイ 2580」を各クラブへ推奨し、クラブでの奉仕活動を後押しさせていただきました。沖縄分区各クラブにおけるチーム嶋村推奨活動への参加率の高さは特筆です。今後もこれら奉仕活動をきっかけとして元気なクラブづくりが期待されています。奉仕の機会を提供し、実践しているクラブの多くで、会員増強が進んでいると感じています。奉仕活動自体は、あくまでも各クラブが主体的に考えて行うことです。しかし、クラブが会員に対して奉仕活動への参加を促すことができていなければ、残念なことになります。残りの 1 か月、会長のみなさんが悔いのないロータリーの奉仕活動をされるように願っています。

４．「4 つの F 賞」へのエントリーはお済みですか？

本年度、地区クラブ運営支援部門では「ロータリー賞」への登録とともに「4 つの F 賞」へのエントリーを推奨しています。4 つの F 賞は「称え合う」ことをキーワードにしています。一つ目の F (Fresh) は各クラブでの新しい取り組み、二つ目の F(Fellowship)はクラブの連帯感が高まった活動、三つ目の F (Find) はロータリー活動での新しい発見、四つ目の F (Fun) はクラブでのワクワクした瞬間といった感じです。元気なクラブづくりに邁進いただいた会長から「4 つの F」を楽しく報告し合う機会として、6 月 27 日、ホテル椿山荘東京で、チーム嶋村の「地区納めの会」を開催します。ぜひとも次年度会長幹事を含めた多くの会員と共にご出席いただき、他のクラブの方々とも交流しながら、親睦を深めていただきたいと思います。

５．6 月はロータリー親睦活動月間です

国際ロータリーはクラブとロータリアンに対して、6 月のロータリー親睦活動月間に、親睦活動を推進することを推奨しています。その一つが国際大会への参加推進です。以前は 6 月開催が多かったのはこ

チーム嶋村　ガバナー月信

のためです（本年度の国際大会はオーストラリアのメルボルンで 5 月 27 日から 31 日まで開催されました)。「友愛の広場」では、さまざまな奉仕プロジェクトの紹介やロータリー親睦活動グループのブースが出展し、ロータリーは世界につながっていることを体感できるようになっています。

改めて、「親睦」についてです。ロータリーでいう親睦は英語の「Fellowship」ですので、「連帯感」「仲間意識」とも訳されます。単に「友人」「友情」とするのでは不足しているのではないでしょうか。「奉仕の理念」を志す会員同士の親睦の土台があって、初めてさまざまな奉仕活動につながっていきます。クラブのみならず地区を越えて親睦を深めることは、ロータリーを楽しく有意義なものにする要因の一つだと思います。

６．モンゴル親善訪問ツアーとロータリーのやる気スイッチ

5 月 2 日から 5 日までモンゴル親善訪問ツアーを行いました（私は 6 年ぶり 5 回目のモンゴル訪問です)。参加者は 5 名の同期ガバナーを含めて 19 名でした。東京荒川 RC と旭川モーニング RC の 2 つのクラブが支出、当地区と第 2800 地区(山形県)と第 2500 地区(北海道西部)の 3 つの地区が地区財団活動資金（DDF）を拠出し、モンゴルのフレーRC とのグローバル補助金プロジェクトとして、モンゴル国立第一病院へ医療機器を贈呈しました。その贈呈式への出席がメインのプログラムでした**（東京荒川 RC から「グローバル補助金を活用したモンゴル医療支援の完成式典レポート」がございます)**。モンゴルのロータリアンや米山学友のみなさんとの温かい交流に感動の連続でした。ツアーには入会して 1 年の若いロータリアンが参加してくれました。彼女から「ロータリーのすごさを体感し、ロータリーの見方が変わりました。ありがとうございます」との感想をいただきました。彼女はこのツアーで「ロータリーのやる気スイッチ」が入りました。「ロータリーのやる気スイッチ」は、いつどこで入るかはわかりませんが、大切なことは参加することだと思います。

会長のみなさん、残り 1 か月、次年度への引継ぎなどたいへん忙しいことだと思われます。しかしながら、最後まで元気なクラブづくりに力を注いでいただきたいです。会長という経験による「ロータリーのやる気スイッチ」が入ることを期待しています。

2021 年 5 月の PNT（会長ノミニートレーニング）から 2 年超、たいへんにお世話になりました。私たちの旅はもうすぐ終わりますが、会長のみなさんのロータリーライフは続きます。私のガバナー年度にみなさんと一緒に歩んで来られたことに、心より感謝申し上げます。

IMAGINE ROTARY

Take Action for Rotary Future. Reach Out for World Peace.

また笑顔でお会いましょう！

２０２３年６月１日

国際ロータリー第２５８０地区ガバナー　嶋村文男

チーム嶋村　ガバナー月信

クラブからの活動報告：
グローバル補助金を活用したモンゴル医療支援の完成式典レポート
執筆：中村みさ子（東京荒川ロータリークラブ）

2023 年 5 月 2 日から 5 日まで嶋村文男ガバナーを団長として総勢 19 名でモンゴルを親善訪問しました。嶋村ガバナーと同期のガバナー5 名と北は北海道から南は沖縄までのロータリアンが集まりました。

今回の訪問のメインイベントは前立腺のレーザー手術の医療機器をモンゴル国立第一病院に寄贈したプロジェクトの完成記念式典への出席です。このプロジェクトは尿管結石の医療機器を贈呈したのに続く、第二弾の取り組みです。グローバル補助金（GG）を活用したプロジェクトであり、東京荒川 RC、旭川モーニング RC が支出するとともに、第 2500 地区、第 2580 地区、第 2800 地区が地区財団活動資金（DDF）を拠出しています。支出・拠出の総額は 74800 米ドルです。

モンゴル国立第一病院には国営放送のテレビ局も取材に来ていました。モンゴル国立第一病院のホールはコンサートもできそうなホールです。ロータリアンだけでなく病院関係者も席を埋めました。

開会の辞に始まり、フレーRC の会長挨拶、ロータリアン、病院関係者の紹介となりました。嶋村ガバナーは「このプロジェクトがモンゴルの患者のみなさんや、そのご家族の幸せに寄与したものであることを嬉しく思う」とご挨拶なさいました。ガラーガバナー補佐のご挨拶、プロジェクトの紹介と効果では医師からも細かく説明がありました。

実際の医療機器を使っている部屋より手術の中継画面が映像でリアルタイムに流れました。先程まで説明をしていた医師です。感動のまま、テープカットになりました。

その後、病院長から「これまでは、手術は海外に行かなかなければならなかった。医療機器をいただいたことにより、この病院で施術でき、患者の予後にも、とても良い結果になる」というお話しをいただきました。

感謝状を授与していただき、同行された他地区の佐藤ガバナー、久木ガバナー、スポンサークラブである東京荒川 RC のご挨拶と続き、締めの言葉で閉会になりました。

国際奉仕活動を行うことができました。また、モンゴルのロータリアン、病院関係者らの真剣さと真摯に事業を遂行する姿勢をとても感じる式典でした。

Rotary Future 企画：
Rotary Future 座談会「インターアクトクラブ活動から未来をひらく」
文章構成：地区ガバナー月信編集委員会

4 月 25 日、東京女子学院中学校・高等学校にて、座談会「インターアクトクラブ活動から未来をひらく」を開催しました。ロータリアン、インターアクター、インターアクトクラブ顧問教師、ローターアクターが「ロータリーとの出会い」と「対話と成長」などについて語り合いました。ロータリアンがインターアクターと対話することは自分自身の成長にもつながります。また、ロータリアン、インターアクター、インターアクトクラブ顧問教師、ローターアクターが世代を超えてフラットに語りあうことで、さまざまな奉仕活動のアイデアを生み出しました。このようなロータリーファミリーの関係性はロータリーにおける DEI といえるでしょう。ロータリアン同士の関係、また、元気なクラブづくりの参考にもなるのではないでしょうか。ぜひご覧いただき、Rotary Future を感じていただきたいです。

座談会の参加者は嶋村文男ガバナーのほか、次の 3 名でした。

サコ・サラさん

東京女子学院中学校・高等学校インターアクトクラブ会長。西アフリカのコートジボアールにもルーツがあります。この 3 月、お父様の故郷であるコートジボアールに行く機会を得ました。座談会の前に行われたインターアクトクラブ例会の卓話でその報告を行っていました。コートジボアールにはキリスト教の巨大な教会があるなどフランスによる植民地時代の名残があります。また、日本料理店が進出してきており、寿司、天ぷら、みそ汁などを食べることができます。この例会には、インターアクトクラブに興味を持った多くの新入生が参加していました。

江藤照美さん

東京女子学院中学校・高等学校インターアクトクラブ顧問教師。授業科目担当は英語。東京女子学院中学校・高等学校に勤務する前の学校でもインターアクトクラブの顧問教師をされていました。ロータリーとの関わりは、青少年交換プログラムの青少年交換学生を受け持ってからです。

春木優杏さん

東京池袋豊島東ローターアクトクラブ会員、地区ローターアクト代表。ロータリーとの関わりは、中学生の時に入会したインターアクトクラブがきっかけです。インターアクトクラブ活動の中で、「環境」に興味を持ち、大学、大学院に進学しました。卒業後、一般財団法人日本気象協会に勤務しています。

ご協力をいただきました東京女子学院中学校・高等学校インターアクトクラブのスポンサーである東京ワセダロータリークラブのみなさまに感謝を申し上げます。

なお、サコ・サラさんは未成年者のため写真掲載について配慮しました。

チーム嶋村　ガバナー月信

嶋村（以下敬称略）：本日は、「インターアクトクラブ活動から未来をひらく」をテーマに座談会を行います。まずは、自己紹介とロータリーとの出会いからお願いします。

サコ：東京女子学院中学校・高等学校インターアクトクラブ会長のサコ・サラです。ロータリーとの出会いは、入学式の後のクラブ紹介です。そこで、インターアクトクラブの紹介もありました。沖縄に行ってみたいと思い、入会しました。米軍基地が見てみたかったからです。

春木：本年度の地区ローターアクト代表の春木優杏です。ローターアクターの前は、インターアクターでした。中学生の時にインターアクトクラブに入会しました。私も入学式の後のクラブ紹介で存在を知りましたが、最初はよくわかりませんでした。当時の先輩に勧誘されて入会した記憶があります。その年（2008 年）、四川大地震があり、インターアクターとして募金活動を行ったのが最初です。

江藤：東京女子学院中学校・高等学校インターアクトクラブの顧問教師、江藤照美です。この学校に転職する前も、インターアクトクラブの顧問をしていましたが、ロータリーとの出会いは、青少年交換学生を受け持ったことです。その学校にはインターアクトクラブがあり、「ロータリークラブ」というワードの認知は広がっており、そこで、ロータリーのネットワークを実感しました。わたし自身、時間と熱量をインターアクターへ注いでいます。

嶋村：座談会の前には、インターアクトクラブの例会にて、サコさんが卓話をされていました。サコさん、感想はいかがでしょうか？

サコ：思ったよりうまく話せませんでした。

嶋村：江藤先生、いかがでしたでしょうか？

江藤：サコさんは、人前でお話しすることが苦手だったのですが、日頃の例会司会進行や地区合同活動などを通し、その成長の手応えを実感しています。サコさんは合気道部とのかけもちもしています。忙しい中、本日の例会のプレゼンテーション資料も作ってくれました。インターアクトクラブになかなか人が集まらず、インターアクトクラブ活動の魅力・楽しさ、インターアクトクラブ活動のやり甲斐をどうしたら知ってもらえるかについて、模索しながら、サコさんと 1 年間、がんばってきました。スポンサーである東京ワセダロータリークラブのみなさんには、辛抱強くサポートを行っていただいています。ロータリーの「待つ姿勢」がサコさんを育てたと思います。ほんとうに感謝しています。サコさんは、自信を付けつつあります。

サコ：はい。人前でお話しする力が備わったように思います。

チーム嶋村　ガバナー月信

嶋村：先ほどの例会には、多くの新入生が見学に来ていました。会員が増えそうですね。

春木：人が増えると良い循環も生まれます。インターアクターだった時、私も殻に閉じこもっていたころもありました。インターアクトクラブの後輩が入ってきてから、先輩として後輩に教えることも増え、人前でお話しできるようになりました。後輩が自分を育ててくれたということです。

嶋村：人との交流ができれば自分の成長にもつながっていきますね。サコさんの卓話を聴いて嬉しく感じました。次に、インターアクトクラブで行いたい奉仕活動はありますか？

サコ：いままでは江藤先生からご提案いただいた奉仕活動をしてきました。これからは自分で探してみたいです。

嶋村：春木さん、サコさんへアドバイスはありますか？

春木：身近で困っていることなどがないか探してみてはどうでしょうか？　たとえば、学校の中でできることはないか？　清掃活動など学校周辺でできることはないか？　アンテナを向けることが大切だと思います。「自分には関係ない」ではなく、「自分にできることはないか」というマインドが必要です。私が高校生の時、東日本大震災が起こりました。その時、自分たちに何かできることはないかと模索しました。

嶋村：江藤先生。思い出に残る奉仕活動はありましたか？

江藤：他校のインターアクトクラブと一緒に行った奉仕活動や、世代を超えたロータリアンやローターアクトのみなさんとの活動が思い出に残っています。たとえば、合同清掃や討論会、スポーツ交流などです。これらの活動はほかのクラブでは得られない体験です。やり遂げたときの達成感が異なります。インターアクターたちも学校間の垣根を超え、自然に近い関係になります。若者たちの順応性・適応力の高さを感じることができます。

嶋村：サコさん。練馬区（東京女子学院中学校・高等学校のある）のボランティアセンターや社会福祉協議会にヒアリングしてみて、そのヒアリングをもとに、みんなで話し合いをしてはいかがでしょうか？

サコ：そういうヒアリングをできるところが、あるんですか？

嶋村：ありますよ。また、「インターアクトとは？」とネットで検索すると、世界のインターアクトクラブの奉仕活動が出てきます。これも参考になります。または、世界のインターアクトクラブとオンライン交流もできるのではないでしょうか？　こんな感じで、インターアクターでアイデアを出し合ってみてはいかがでしょうか？

春木：他のインターアクトクラブにどういった活動をしているか、ヒアリングしてみるというのもありですね。

サコ：ありがとうございます。まずは、ボランティアセンターへヒアリングに行ってみたいです。

嶋村：その時には、インターアクター何人かで行くことをお薦めします。さまざまな視点でニーズをキャッチできるからです。江藤先生、学校の中での奉仕活動はいかがでしょうか？

江藤：校内での掃除を考えたことがあるのですが、わが校は全校で一斉清掃を行い、毎日廊下も雑巾で磨き上げています。では、通学路はどうかと考えたのですが、最寄り駅から当校まで、きれいで、空き缶、吸い殻はありません。高齢者施設、児童施設も考えたのですが、コロナ禍でここ数年は訪問が難しい状況が続きました。奉仕活動が停滞していました。今は動き始めています。クラブ紹介の時、「インターアクトクラブは何をしているの？」と疑問を持つ生徒が多いですが、今年の新入生は食いつきが良く目を輝かせていろいろ質問してくれました。

嶋村：東京女子学院中学校・高等学校には留学生もいらっしゃるようなので、交流会を企画してはいかがでしょうか？　国際理解を深めるためです。こうやって話し合いをしているとアイデアが湧いてきますし、アイデアを引き出すことができます。人間的な成長にもつながります。続いて、江藤先生からインターアクトクラブ活動への今後の期待をお話しいただけますか？

江藤：生徒が卒業すると会う機会がなくなります。しかし、ロータリーファミリーという括りのおかげでご縁がつながり、卒業後に会う機会が生まれます。これもまたロータリーならではです。たいへんありがたいことです。また、ロータリーは中学生・高校生に社会に出たときに役立つ力の種をまいてくれています。中学生・高校生が教師以外の方々と接することで、社会を身近に感じることができます。生徒一人ひとり、苦手なこと、興味あることは異なります。インターアクトクラブ活動により、苦手を克服するために模索することは殻を破るために活かされています。同時に興味ある分野の探求を深めることができます。

嶋村：春木さんはロータリーと出会ってどのような未来形成をしましたか？

春木：インターアクターであったことは自分の進路を考える時に役立ちました。インターアクトクラブでの植樹活動や清掃活動などの経験から、環境に興味を持ち、大学は環境に関する学部を選択しました。インターアクターとしての出会いや経験が刺激になりました。大学から大学院、就職（現在、一般財団法人

日本気象協会に勤務）と進みますが、ロータリーと出会わなければ、こういう人間になっていないと思います。人生が良い方向に変わりました。顧問の先生や地元のロータリアンとは今でも帰省したときに食事に一緒に行くほどです。ロータリアンだけでなく、インターアクトクラブの後輩からも学ぶことが多かったです。良い影響を得たおかげで、奉仕活動ができています。

嶋村：サコさんの未来予想図はいかがでしょうか？

サコ：語学の方向とかを考えています。英語を勉強したいです。

嶋村：語学の習得はチャンスになりますね。語学を活かして次のステージは考えていますか？

サコ：トルコや中国に行ってみたいです。どちらもほとんど知らないからこそ、知りたいです。

嶋村：素晴らしいですね。奉仕活動は目的をもって企画し、インターアクターらしく新しい発想で行っていただきたいです。本年度、Take Action for Rotary Future を掲げました。ロータリーの未来のために行動しようということです。また、Reach Out for World Peace も掲げました。これは積み重ねが平和につながるということです。サコさんには、日々の積み重ねにより、自分の未来をひらいていっていただきたいです。春木さん、いかがでしょうか？

春木：改めて、インターアクトって良いなあと思いました。

嶋村：江藤先生、いかがでしょうか？

江藤：ロータリーとの出会いは偶然のようでもありますが、やはり必然なのでしょう。こうあるべくして今があると感じています。ロータリーと出会っていないと、サコさんにも出会えていないです。これからも、出会いを大事にしていきたいです。私の原動力として、若者の育成があります。それとともに、無限の可能性にあふれた若者から元気をいただいています。

サコ：インターアクトクラブの会員が増えなくて悩んでいました。嶋村さんや春木さんから具体的なアドバイスをいただき、参考になりました。今後に役立てていきたいです。

嶋村：本日はみなさんありがとうございました。

チーム嶋村　ガバナー月信

第54回ローターアクト年次大会「Forecast」の開催報告

執筆：地区ローターアクト代表　春木優杏、地区年次大会実行委員長　岡本浩尚

ローターアクトの1年間の集大成ともいえるローターアクト年次大会。今年で54回目となり、5月7日、タワーホール船堀で開催しました。今年は3年ぶりに完全オフラインでの開催としたこともあり、会場にはロータリアン、ゲスト、ローターアクター、OB・OG合わせて約170名の参加者にご臨席いただきました。ひさびさに多くの方が一堂に会したこともあり、会場から熱気を感じることができました。これまではステージ上での発表を参加者は着座して聴くスタイルでしたが、本年度は展示会のようにローターアクトクラブごとのブースを設置し、各クラブの活動報告を参加者のみなさまに紹介する形で行いました。このブース形式での活動報告を行ったことで、参加者のみなさまには、よりクラブや地区の活動について深く知ることができたと同時に、交流の機会になったのではと考えています。

ブースを通してこれまでより詳細に活動内容を紹介するだけでなく、参加者同士が広く交流する機会となりました

大会テーマである「Forecast」は岡本実行委員長の発案です。RIテーマ「IMAGINE ROTARY」や地区ローターアクトのターゲット「Think Future」と同じく、未来志向のキーワードであり、ローターアクトのこれからや未来を予想（予報）できるように、まずは今をしっかり見据えようという意味合いが込められています。プログラムは「第2580地区アクト予報」と題し、4つのクラブ会長にご登壇いただき、会長のモチベーション・クラブの活気・例会や奉仕活動の充実度・ロータリークラブや他クラブとのつながりといったテーマのもと、各クラブの本年度のふり返り（実況）と次年度の展望（予報）について触れていただきました。

天気予報の番組テイストでお届けしたステージプログラム「アクト予報」。クリエイティブに遊びの要素を持たせながらも内容は真剣でした

本年度、地区ローターアクトでは行事の企画・実施を通して実現したいことを3点掲げていました。「ロータリアンとローターアクターがともに奉仕・親睦ができる機会をつくる」ことと「ローターアクトのファンを増やす」ことを通じて、「ローターアクトに関わるあらゆる人がローターアクトの未来についてワクワクできるようなビジョンを持ってもらう」ことです。会長幹事会やガバナー訪問交流会、プロギング活動、インターアクターとの合同清掃・活動報告会などを通し、奉仕・親睦を共に行う機会の創出、ローターアクトの魅力を伝えることでファンを増やしてきました。年次大会では参加者のみなさまにローターアクトのこれからの未来についてワクワクできるようなビジョンを持っていただけたのではないかと思います。当日ご参加いただいたみなさま、普段から地区運営にご理解とご協力をいただいている各スポンサークラブ、地区ローターアクト委員会、第2580地区のすべてのロータリアン・ローターアクターに感謝申し上げます。

チーム嶋村　ガバナー月信

地区 RA 代表エレクトのご紹介
執筆：地区ローターアクト代表エレクト　岡本浩尚

■プロフィール
氏名：岡本浩尚（おかもとひろなお）
出身：奈良県
年齢：29 歳
所属：東京ワセダローターアクトクラブ
役職：地区ローターアクト代表エレクト
　　地区年次大会実行委員長
職業：ソフトウェアエンジニア（KDDI 株式会社）
ローターアクト歴：2016 年 4 月～2018 年 3 月　京都洛北 RAC（第 2650 地区）
　　2019-20 年度～　東京ワセダ RAC

■ローターアクトクラブに入ったきっかけ
　大学院生になり、時間を持て余していたときに父親（第 2650 地区あすかロータリークラブ会員）からローターアクトについて紹介され、入会しました。

■印象に残る奉仕活動

　昨年、北海道（第 2510 地区）の赤平ローターアクトクラブと合同で行った「みつばちワークショップ例会」がとても印象に残っています。減少するミツバチの保護活動として、ミツバチの大切さを学びつつ、ミツバチが休憩できるミツバチホテルを作るワークショップと、全国から集ったローターアクター同士の交流を合わせた、まさに「奉仕と親睦」を実現した非常に楽しい例会でした。

■ロータリアンとのつながり
　提唱いただいている東京ワセダロータリークラブのみなさまには、ローターアクトクラブの例会や奉仕事業に頻繁に参加していただいており、たいへんありがたく思っています。通常例会に参加することはできておりませんが、ロータリークラブの夜間例会の際にはお邪魔させていただき、ご挨拶させていただいています。

■次年度代表としての抱負
　次年度の地区ターゲットを、Rotaract と 3 つの X（Experience:体験、Transformation:変化、Crossover:交差）を合わせ、「RX」としています。地区内の情報共有フローの見直しと、地区内の交流の活性化を行い、ローターアクターがより良い「ローターアクト体験」をできるよう努めます。次年度も引続き、ご指導のほどよろしくお願いします。

チーム嶋村　ガバナー月信

アースデイ報告：
アースデイ 2580「ぶっく・デ・アース」の事業報告（東京北部）
執筆：地区公共イメージ委員会　アースデイチーム　リーダー　佐原且朗

2021 年 7 月からロータリーの重点分野になった「環境」は本年 4 月から特別月間となりました。第 2580 地区においては環境に対する Take Action として、アースデイ 2580「ぶっく・デ・アース」事業が多くのクラブで執り行われました。東京北部における概況報告及び取組みの具体的事例を紹介します。

アースデイ 2580「ぶっく・デ・アース」における本年 1 月から 3 月に実施した古本の回収には 31 クラブが参加しました。また、4 月のアースデイ、環境月間に独自事業、環境関連への寄付、他クラブへの共同参画などアクションを起こしたクラブが 19 クラブありました。その内の 9 クラブは自治体、学校、商店街など地域を巻き込んでのプロジェクトでした。

本年度アースデイをテーマとし、多くのクラブが具体的に環境に対する行動を起こして下さいました。ぜひ次年度以降も、新たな重点分野である環境への取組みをお願い申し上げます。

①東京新都心ロータリークラブ
西新宿小学校の児童と新宿中央公園内にある東京新都心寄贈の花壇にマーガレットの花を植栽しました。

②東京武蔵村山ロータリークラブ
武蔵村山市山崎市長、乙幡環境部長に式典へ参加いただき、大南公園にヤマボウシを植樹しました。

③東京武蔵野中央ロータリークラブ
松下玲子武蔵野市長にご臨席いただき、新設の西久保はらっぱ公園にソヨゴの木を植栽しました。

チーム嶋村　ガバナー月信

沖縄分区におけるアースデイ「ぶっく・デ・アース」のレポート
執筆：地区公共イメージ部門長　新城恵子

１．沖縄分区全体の概況

クラブ	概要
那覇	野村証券のサンゴ取り組みを応援する。有志による《環境ウォーキングラリー＞を行う。
石垣	植樹後ケアができないので、竹富小学校の指田文庫に図書購入金として寄付。
コザ	沖縄市こどもの国に植樹。過去に植樹した樹木ケアも同時に行う
那覇西	地区事業から根付いた献血事業と合わせて実施する
宮古島	森林組合から宮古島の三大水源地の上で環境の大切さを講話頂き環境整備と植樹を行う
宜野湾	“参加しない”理事会決定　　（クラブ財源でやむなしと判断）
那覇東	蘭農家から廃棄の為に提供された蘭で、金城ダム通りに自治会&興南高校と共に植栽。
浦添	恩納村に蜜源植樹。那覇東ＲＣから提供された蘭1500苗を首里自治会など3団体で植樹
名護	屋我地島に赤土流出防止策でペチパーのグリーンベルトを創る。資金集めは古本などで。
那覇南	サンゴ植樹に自クラブ＆友好４クラブを合同付随させ、合同夜間例会も同日実施する。
那覇北	5月21日渡嘉敷島で、那覇看護専門学校と環境を考えるビーチクリーン活動予定。
沖縄首里	浦添ＲＣと合同開催

２．主な取り組みの具体的事例

①名護 RC：子どもと一緒に地域環境に取り組んだ体験型奉仕

　大人と子どもが一緒に土壌と海の関係性を学び、地元の問題を共有し、屋我地にペチパーを植栽しました。北部は土壌が赤土で、雨の際の流出がサンゴ絶滅の原因とされます。その流出防止策を実行しました。

②那覇東 RC：女性会員のクラブ満足度が高く奉仕活動が充実

　奉仕活動を重ねるごとに一丸となっていくクラブです。最近、女性会員の入会が増えかつ満足度が高いです。今回の蘭 2000 鉢の無償贈呈も女性会員のご縁からです。また、鉢を分けてもらった浦添 RC は必要としている他の奉仕団体に連絡をとり植樹活動を拡げることができました（下記④につづきます）。

③那覇南 RC：友好クラブとアースデイ植樹を合同実施

　友好クラブとの付き合い方がとてもユニークです。海中ダイビングで行うサンゴ植樹について、那覇南 RC がホストを務め、札幌南 RC、富山南 RC、高松南 RC、東京臨海西 RC と合同開催企画としました。

④浦添 RC：地域とつながり「ありがとう」活動

　「環境を学ぶ」を主軸に地域課題を調べ、赤土流出防止「ハニーコーラル」事業への支援を決め、恩納村役場と連携しました。事業関係者や「咲かそう会」のみなさんとも交流が深まりました。「万座毛で命を絶とうとする方がこの蘭を観て思いとどまってくれたら」と役場職員のコメントが印象に残りました。

チーム嶋村　ガバナー月信

チーム嶋村 8 部門活動報告：
地区クラブ運営支援部門本年度活動報告
執筆：地区クラブ運営支援部門長　高橋博文

地区クラブ運営支援部門では、「アフターコロナのロータリー活動の源となるクラブ・会員の活性化に繋がるお手伝い」として「地区クラブ奉仕委員会」と「地区 ICT 委員会」の両輪を軸として、以下のとおりさまざまなツールを用いて活動しました。ご理解とご協力をいただきましたクラブのみなさま、各委員会の委員のみなさまに深く感謝を申し上げます。

■地区クラブ奉仕委員会（小澤徳委員長より）

当委員会では「アフターコロナの元気なクラブ運営」のツールとして MY ROTARY の登録率アップとロータリー賞へのエントリーを掲げて活動しました。MY ROTRY の登録率については、5 月 8 日の時点で 60%以上登録済クラブが 23 クラブ、100%達成クラブが 3 クラブありました。クラブごとの温度差があるものの地区全体平均も年度当初の 40.58%が 44.23%と、本年度でほぼ 1 割の登録率アップとできました。

次にロータリー賞へのエントリーにつきましては、本年度初めての試みのため、当初ご理解いただくことに苦労しましたが、年初の 70 クラブ中で実に 62 クラブがそれぞれ掲げた目標に向けて元気なクラブづくりのために挑戦いただいていることに喜びを感じております。さらには次年度地区方針の中でも引続き MY ROTRY の登録率アップとロータリー賞へのエントリーを推奨していただけましたことに大きな成果を感じております。

最後に本年度独自のアワード「4 つの F 賞」につきましても現在 81 件のエントリーをいただいております。〆切りは 5 月末日に延長し、より多くのクラブのみなさまと 6 月 27 日の「地区納めの会」にて各クラブの活動を称え合いたいと考えております。

■地区 ICT 委員会（牛島聡委員長より）

当委員会で「クラブ例会ハイブリット化の勧め」と「キャッシュレス普及のための研究」に的を絞って活動をしてきました。ハイブリット例会はコロナ禍だけのものではなく、出張先や遠隔地からの例会出席を可能とし、キャッシュレス化とともに経費節減から会員増強にもつなげられる課題と捉え、年度前半には地区内クラブでの卓話を行いました。また、本年 3 月から 5 月には継続的にハイブリット例会またはクラブキャッシュレスを実施可能にしているクラブの見学会として、委員長・副委員長の所属するクラブのご協力のもと、ハイブリット例会見学を東京お茶の水 RC とキャッシュレス見学を東京紀尾井町 RC にて、実際に準備段階から体験し、質問に応じる形で行い、メイクアップに来られた会員の理解度向上の一助となったことと思います。

見学会を実施しての所感としましては、キャッシュレスに興味のあるクラブが多いですが、オンラインについてはコロナの落ち着きと 5 類への移行からか反応が薄かったです。コロナ禍で世間のオンライン化は加速したのにロータリーは年齢的なのか、第 2580 地区が保守的なのか心配です。世界的に DX 化が進む中、クラブのオンライン対応やキャッシュレス化など、クラブの組織、プロセス、風土を変革して、クラブの優位性を確立することをお勧めします。

チーム嶋村　ガバナー月信

地区職業奉仕部門活動報告
執筆：地区職業奉仕部門長　藤掛靖元

１．本年度の活動について

本年度は地区運営方針に基づき、職業奉仕の原点「奉仕の理念」を深め、研鑽し実践（Take Action）、未来へ繋ぐを方針とし次の３つの事業とアンケートを行いました。

（1）職業奉仕卓話資料の提供

奉仕の理念への理解を深めるため各クラブの職業奉仕委員長に自クラブで卓話をしていただくためのツールとして卓話資料を作成し提供しました。また、卓話を聴いた後、フォーラムの開催、またその中でディスカッションの時間を取っていただくことを推奨しました。

（2）マンガによる「奉仕の理念を未来へ繋ぐ・決議 23-34 から紐解く奉仕の心」電子ブック作成と地区のホームページへのアップ

奉仕の理念が誕生した背景とその意義は決議 23-34 を紐解くことで見えてきます。とかく難しいと思われがちな決議 23-34 をわかり易く学べるようマンガによる電子ブックを作成しました。エンディングでは奉仕の理念を未来へ繋ぐ意義が語られます。卓話資料と一体で活用することでロータリーの原点である「奉仕の理念」への理解を深めることができるツールです。

（3）地区職業奉仕セミナーの開催

2022 年 12 月 9 日（金）、主婦会館プラザエフ（四谷）にて地区職業奉仕セミナーを開催しました。上記卓話資料の活用方法と卓話実演、マンガ電子ブック「奉仕の理念を未来へ繋ぐ・決議 23-34 から紐解く奉仕の心」の紹介を行いました。また、地区研修協議会の部門別研修で講演をされた青木伸翁地区職業奉仕部門アドバイザーによる「ロータリー倫理訓」の講話を行いました。

（4）職業奉仕アンケート

上記の卓話資料、電子ブックの活用などにつきアンケートを実施し、その成果を検証しました。

２．活動の成果、今後の課題など

上記の職業奉仕アンケートの結果を見ると多くのクラブから「奉仕の理念の再認識ができた」「きっかけを作ることができた」との感想をいただきました。また、次年度も継続して取り組むとのご意見もいただきました。各クラブの会長としては奉仕活動を通しクラブの活性化とこれを如何に会員増強につなげるかなどの重点課題であるかと思いますが、その根底にあるものは奉仕の理念です。今般、ロータリーのみならず人生の指針ともなる奉仕の理念の啓蒙に取り組めたことはたいへん意義深いことであると思います。意義ある奉仕の実践を推進するためにも、次年度以降も継続してこのテーマに取り組む必要性を感じています。

チーム嶋村　ガバナー月信

地区社会奉仕部門　本年度の活動報告
執筆：地区社会奉仕部門長　相澤愛

１．本年度の主な活動報告

(1)「参加型奉仕活動」の実践

本年度はこの「参加型奉仕活動」をキーワードに、各クラブの奉仕活動についての情報を集め、地区全体で広く共有することに努めました。

①事前の情報収集と共有

Googleフォームから奉仕活動の予定を登録してもらい、毎月発行の「社会奉仕部門通信」に掲載し、地区広報委員会の協力を得てSNSでも発信しました。

②奉仕活動の体験と感動の共有

奉仕活動の参加者による体験レポートを「社会奉仕部門通信」に掲載しました。

③地区ホームページへのアーカイブとしての掲載

今後の参考とするため、各クラブに地区ホームページへの掲載を依頼しました。

(2)「IMAGINE ROTARY ワークショップ ～環境～」の開催

2022年12月3日、地区公共イメージ部門・地区ロータリー財団部門との共催により、当地区において環境について学ぶ初めての機会となりました。参加者アンケートによれば、「環境問題について学ぶことが多かった」「参加して良かった」という感想がほとんどでした。なお、当部門においては、プラスチックゴミ削減へ寄与できることを実践する一つの方法として、マイボトルを持参しペットボトルを利用しないことを申し合わせ、環境配慮型の委員会を開催しました。

２．本年度の活動をふり返って

他クラブの奉仕活動に参加した方からは、「他クラブからたくさんのヒントをもらった」「多くの感動をもらえた」「新しい仲間ができた」などの感想が聞かれました。また、他クラブに参加することはできなかったが、「「社会奉仕部門通信」により他クラブの事例をたくさん知ることだけでもたいへん参考になった」という意見も多く聞かれました。複数のクラブが共催する例も多く見られ、自クラブを超えた奉仕活動の流れを作れたのではないでしょうか。

３．次年度以降に向けて

当地区には70以上のクラブがありますので、1年間に実施される地区全体の奉仕活動はおよそ100前後となります。各クラブそれぞれにノウハウなどがあるわけですから、お手本もたくさんあることになります。地区内で情報を共有できる仕組みができたことは、次年度以降、当地区における奉仕活動がより活性化していく力になると思います。自クラブを超えた奉仕活動の実践がさらに広がっていくことを期待しております。

チーム嶋村　ガバナー月信

地区国際奉仕部門
執筆：地区国際奉仕部門長　林克昌

2022‐23 年度の地区国際奉仕部門は、①地区内の各クラブに国際奉仕の機会を紹介し、クラブの積極的な国際奉仕活動やグローバル補助金申請・活用などをサポートする、②メルボルンにおける国際大会の参加をきっかけに、地区内ロータリアン各々が、個人のあるいはグループとしての興味や趣味を世界のロータリアンと分かち合う機会を紹介し、参加をサポートする、という 2 点を目標に本年度をスタートしました。

具体的な取組みの結果について、以下にご報告します。

(1) ポリオの根絶に向けてインド NID ツアーの計画

嶋村文男ガバナーの肝入りで予定されたインド NID（全国ワクチン投与日）への取り組みでしたが、残念ながら本年度中にインドで NID が実施されることがなかったため、中止となりました。一方で、ガバナー月信 5 月号 5 ページにあります通り、東京向島 RC の小林康徳さんがパキスタン・イスラム共和国ポリオ NID に参加されたレポートを載せておられます。ご興味のある方はぜひご覧いただき、ご参考にしていただければと存じます。

(2) グローバル補助金や地区補助金を利用した奉仕の機会を地区内各クラブに紹介

担当していただいた松林茂副委員長を中心として、所属されている東京セントラルパーク RC によりグローバル補助金（以下、GG）を利用した国際奉仕を実施していただきました。第 3350 地区の飯田ガバナーから紹介いただいた、タイ国の NAWAMIN RC の SURACHAT 氏（第 3350 地区パストガバナー）と共に、NAWAMIN RC 他 8 クラブが実施国側クラブ、当地区の東京セントラルパーク RC と東京御苑 RC が支援国側クラブとなり、第 2580 地区の GG で、ナコンサワン州の 2 つの病院に医療器具を寄贈しました。総額 51,172 米ドルの GG プロジェクトを本年度中に完了していただきました。GG の申請、認可取得にあたってはガバナー事務局の安井様にご尽力いただきました。地区国際奉仕部門として GG を用いた国際奉仕のたいへん良い事例を残すことができました。また、松林副委員長には GG を利用した国際奉仕推進の方法について、東京城北 RC で卓話もしていただきました。

(3) 国際大会（メルボルン）への参加サポート

国際大会参加推進委員会の加古博昭委員長と連携し、地区内ロータリアンの国際大会への参加サポートを行う予定でしたが、機会を逸してしまい、国際奉仕部門としては何もできませんでした。ガバナーナイトのご盛会をご祈念申し上げます。

以上、1 年間、ご支援いただき誠にありがとうございました。

本年度地区青少年奉仕部門の活動報告として
執筆：地区青少年奉仕部門長　比留間孝司

Take Action for Rotary Future　ロータリーの未来のために行動しよう

この嶋村ガバナーの信条を体現すべく、次の２つを事業の柱としました。

(1) ３つの事業委員会にて青少年の育英事業に注力

地区インターアクト委員会、地区青少年交換委員会、地区 RYLA 委員会は、それぞれ素晴らしい委員長のリーダーシップのもと、充実した活動が行われました。田名毅地区 RYLA 委員長のリーダーシップが発揮された３泊４日の RYLA の成果は、本年度末の RYLA 学友会の設立にまで及んでいます。さらに個々の事業の枠を超えたクロスプロモーションも積極的に展開されたのが本年度の特長です。嶋村文男ガバナーの思いを反映した青少年交換プログラムのジャパンツアーへのインターアクターの参加はその白眉と言えるでしょう。加えて、藤本誠一地区インターアクト委員長のリードで、インターアクトクラブの合同活動の機会に青少年交換来日学生との交流や、ローターアクターとの合同活動も実施できました。また、飯塚憲貴地区青少年交換委員長の発案から、９月の米山奨学プログラムの米山梅吉記念館訪問・柿田川湧水清掃活動に来日間もない青少年交換学生が参加するという企画も実現できました。相乗効果を生んだと感じています。

(2) ロータリアンとロータリーファミリーとが未来を共有するための企画の実施

個々の事業に注力すると同時に、ロータリアンとロータリーファミリーとが同じ時間と空間を共有しながら、私たちの未来を一緒に考えてみる、そんな企画も実施しました。９月の地区大会には 100 名を超えるロータリーファミリーに登録していただき、ロータリーの最優先プロジェクトであるポリオ根絶について問題意識を共有しました。その成果は 10 月のポリオデーに向けたさまざまな活動に如実に現れていたと思います。続いて、３月５日の Rotary Future Festa です。多様性・公平さ・インクルージョン（DEI）についてロータリーファミリーのみなさんと一緒に、頭で難しく考えるよりも、実感と納得ができることを念頭にしました。コラムニスト・コメンテーターとして活躍されている小原ブラスさんとパラリンピアン・モデルの一ノ瀬メイさんをゲストにお迎えして、オープンフォーラム・パネルディスカッション・参加者のテーブルディスカッション、そしてロータリーファミリー活動報告と盛りだくさんの内容となりました。

地区として、こうした新鮮な視点からの問題提起と機会の提供により、さらに有意義な奉仕活動のヒントを示すことができたと自負しています。みなさんの中で「好ましい変化」を生み出していただけたならば、これ以上の喜びはありません。

チーム嶋村　ガバナー月信

地区ロータリー財団部門活動報告
執筆：地区ロータリー財団部門長　吉田弘和

本年度の地区ロータリー財団部門の活動は、嶋村文男ガバナーの「地区として寄付金目標額は設定しない」方針でスタートしました。寄付金の意義や仕組みについて掘り下げてご理解いただき、その上で実情に応じた寄付金を拠出していただくことに注力しました。シェアシステムに基づく仕組みや国内外の寄付金活用実績など機会あるごとに伝えた結果、アンケート結果からも徐々に浸透していったのが窺えます。寄付金は例年ぎりぎりの駆け込みの拠出が多く、年度が終わらないと確定額がわかりません。クラブによるばらつきもありますが、残された期間、各クラブにおかれましては最大限のご協力を改めてお願いします。

ロータリー財団の活動目的にロータリー財団への理解を広めることがあります。その一つとして、本年度は財団セミナーを年2回開催することにしました。1回目のセミナーは、ロータリー財団が所管するそれぞれの機能、具体的には寄付金・補助金、平和フェローシップ、ポリオについて基本的な仕組みから現実の状況までわかりやすく伝えることを目指しました。2回目のセミナーは、補助金活用セミナーと題して、補助金事業の企画から補助金申請方法に至るまでより実務的な側面に焦点を当てました。補助金の原資は各クラブから拠出いただいた年次基金・恒久基金への寄付金です。限られた大切な資金を有効活用しようと単なる物品提供に留まることなく色々な工夫をお願いしたところ、20 を超える補助金申請をいだたきました。地区補助金委員会の審査の過程で支援基準を満たすために補助金事業の内容を一部修正いただく場面もありましたが、こうした取組みで補助金事業が一歩一歩進化しているものと感じています。グローバル補助金についても複数の申請がありました。最終的にはグローバル補助金に馴染まないなどの事由で別の形での支援になるものもありましたが、相手国との協議が続く中で国際交流が進展し、地区として「世界組織であるロータリーを体感する」ことがまた一つ積みあがったのは嬉しい限りです。

ロータリー平和フェローシップもホストエリアの一つとして積極的に取り組みました。平和センタープログラムの紹介動画の作成もその一つです。22 分 45 秒の動画でプログラムの全体像が分かりやすく伝えられています。これに加え、地区内でいくつかのクラブで卓話を実施しました。普段のロータリー活動では接点の限られているロータリー平和フェローシップについて理解を広めることができました。

本年度、地区ロータリー財団部門として注力した項目に「環境」があります。「環境」は前年度において、ロータリーの 7 つ目の重点分野として加わりました。これまでの重点分野と異なり「環境」はその多くが地球規模で解決しなければならい課題であり、その考え方や取組みアプローチなど新たなに学ぶべき項目も多々あります。2022 年 12 月には地区社会奉仕部門、地区公共イメージ部門と協働で「IMAGINE ROTARY　ワークショップ　～環境～」も開催しました。嶋村ガバナーを訪ねて来日した米国ノースカロライナ州のガバナーがロータリー環境アクショングループの役員であったご縁もあり、海外のロータリーにおける環境についての議論の情報も得ることができました。地区にとってはまさしく環境元年と呼べる成果がありました。

今後、「環境」の分野において国内外で補助金事業が展開されることを願ってやみません。

地区米山奨学部門「1年間ありがとうございました。感謝！！」
執筆：地区米山奨学部門長　猪飼昭彦

みなさま、こんにちは！　みなさまにはお世話クラブ、ご寄付、カウンセラーなどご協力いただいたことに心から敬意を表し、感謝申し上げます。

数年前に当時のガバナー内定者である嶋村文男さんから「私の年度の地区米山奨学部門長を引き受けて下さい」とお話しをいただいたのが昨日のように思い出されます。私の亡き父が 2006-07 年度の地区米山奨学委員長のお役目をさせていただいていたのを傍らで見ていたのと、自分自身の気力、体力、耐力、能力などを考えたときにお引き受けするのをとても躊躇しました。米山奨学事業が各お世話クラブ、みなさまのご寄付、カウンセラー、地区米山奨学委員会、米山記念奨学会、米山学友会等のさまざまの方のご協力、ご尽力によって成り立っていることが知識としてあり、かつ下記の言葉を尊敬するロータリアンから学んでいたからです。「近代福祉社会の虚構の一つに善行が他人のお金でできてしまう事があり、①自分のお金を自分のために使う。この場合は節約と効率の原理が働く。②自分のお金を他人のために使う。これは節約の原理は働くが効率への配慮が無くなる。③他人のお金を自分のために使う。これは専ら効率を考えるが節約の配慮が無くなる。④他人のお金を他人のために使う。これは節約も効率も考えないという 4 つのパターンがあり、特に③と④の場合は自己顕示欲ばかり肥大して結局はネガティブな方向に行ってしまうことがある」という言葉です。米山奨学事業は正にそれに該当し、自分が透明性、倫理観、DEI の感性を持ちながら、地区や米山奨学生たちに接することに自信が無かったからです。しかし、嶋村さんから完全バックアップの力強い言葉をいただき、お引き受けさせていただきました。とても幸せなことに当時の地区委員長にもとても優しく、真摯に、紳士にご指導いただき、1 年間が過ぎようとしています。

米山奨学事業は奨学金を授与させていただいている単年度ではなく長期に渡る事業だと思います。日本全国のみならず海外 10 か国に学友会があり奨学生には学友会に入会する機会があるからです。今後の米山奨学事業も今までどおり奨学金のみならずカウンセラー制度が続くと思います。それは人と人の関わりなので、思うようにならない場合や少なからず問題が起こってしまう場合もあります。しかしリスペクトやオープンマインドの心があれば必ず良い結果、笑顔の結果になると思っています。

個人的にはベトナム南米山学友会設立に関われたこと、タイ米山学友会直前会長の結婚式にバンコクまでご招待していただき新郎の主賓挨拶をさせていただいたのが「オフィシャルに公開できる」素晴らしい思い出です。

最後になりますが、米山奨学事業は 1 年間を通して数多くの行事があります。今後ともさまざまなアングルからみなさまのご協力、ご理解の継続を希望させていただき、1 年間の締めくくりのご挨拶とさせていただきます。

地区公共イメージ部門の本年度活動報告
執筆：地区公共イメージ部門長　新城恵子

１．公共イメージ委員会はどのような活動を行い、どんな成果があったか

(1) ポリオデー2580「街頭募金」：クラブ内外でポリオ根絶運動の周知と理解促進を行いました

・取り組んだ歴史背景と活動を知ることが、誇りにつながる意義となりました。

・地域とクラブ、クラブ同士やロータリーファミリーがつながりインパクトが拡がりました。

・人々を巻き込み社会との接触が増えたことから奉仕の実感の声が上がりました。

・ロータリー財団ポリオ基金に308万円余を寄付することができました。

・公共イメージ向上を意図した新聞広告枠が数日で埋まり、枠拡大となり大きな達成となり、地域や社会から活動への賞賛と応援の声がいただけました。

・YouTube・SNS・LINEでの情報拡散と共有は温度差縮小に役立ちました。

(2) アースデイ2580「ぶっく・デ・アース」：環境ワークショップと植樹イベントを実施しました

・環境元年に、私たちができる環境整備と未来を考えるワークショップを開催しました。

・ロータリーは世界の課題解決に取り組む組織だと視野が拡がりました。

・蜜源植樹や海中ダイビング中に行うサンゴ植樹、無償提供された蘭鉢の有効活用、過去の植樹ケアなどクラブの独自性により実施しました。各々で地域課題を調べ、地域と共に行動する活動体になってきました。

・動画や写真がFacebookで紹介され百聞は一見に如かずの効果を感じました。

(3) 地区広報委員会はイベントを撮影し、YouTubeやSNSで情報発信しました

・地区広報委員会のSNS発信で、写真や動画をクラブ内だけでなく一般社会へも即時伝えるツールとなり、アースデイでは大いに役立ちました。

・ガバナーを身近に感じて欲しいと「みさ子の部屋」「トミーの部屋」は、リハーサル無しの自然体で撮影されました。クラブで起こっている身近な問題を取り上げ、ガバナー自身の言葉で解説する構成で撮影が進みました。

２．今後の課題

(1)「地区事業か？　クラブ事業か？」とよく問われました。「地区事業にふり回されたくない」とのコメントもありました。RIとクラブと地区の役割を整理する必要を感じました。責任感のあまり強制気味になってしまうことがあるかもしれないです。奉仕活動が増えている今、合意形成が必要と感じています。

(2) DEIの理解度が偏っているクラブ内では、会員同士の関係性に不信感が発生する可能性があるのではないかと危惧しています。クラブではDEIの学びとロータリーの変化の変遷を同時に学ぶ必要があると感じました。

チーム嶋村　ガバナー月信

入会者情報　～クラブにおける会員増強のためのヒント・アイデアを提供します～

１．情報収集の時期

2023 年 4 月 15 日から 5 月 15 日まで（入会日は 2022 年 12 月 14 日から 2023 年 5 月 15 日まで）

２．入会者数（任意の提供ですので、実際の人数とは合致していないと存じます）

13 名

３．入会者の年齢層（小数点第 2 位切捨て）

	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代以上
人数	0	0	6	6	1	0
割合	0%	0%	46.1%	46.1%	7.6%	0%

※最年少 40 歳、最年長 62 歳

４．入会者の性別（小数点第 2 位切捨て）

	男性	女性
人数	12	1
割合	92.3%	7.6%

５．職業

経営コンサルティング、集金代行サービス、泌尿器科医、医薬品製造、銀行業（5 名。信託銀行、外国為替銀行、信用金庫含む）、プロレスラー（自動車販売業）、建設業（2 名。内装大工業、溶接工事）、税理士

６．紹介者との関係

取引先・仕事関係（5 名。取引関係、取引先・PTA・卓話講師、取引先・友人仲間含む）、親族の知り合い（2 名。会員の父親の知り合い、会員の妹から、友人の入会者の妹へ話が伝わり入会者の妹から入会者（兄）へ伝わりマッチング含む）、人事異動（3 名。勤務先後輩（支店長後任）、支店長の異動、人事異動により前任者を引継ぎ入会含む）、同じゴルフクラブのメンバー、サークル仲間、クラブホームページから入会の問い合わせ

７．クラブ別の入会者数（クラブ名、一部省略）

東京（4 名）、東京西北（1 名）、東京浅草（1 名）、東京葛飾東（1 名）、東京臨海（3 名）、東京江戸川中央（1 名）、東京小平（1 名）、名護（1 名）、以上 8 クラブから回答

８．特記事項

東京江戸川中央 RC への入会は「クラブのホームページ」がきっかけとなり、そこからお問い合わせいただいたことによります（ご職業は税理士、50 代の男性です）。ホームページからは、昨年 7 月の東京葛飾 RC への入会もありました（こちらのご職業は広告業、20 代の女性でした）。

両クラブのホームページをご覧いただくことも参考になるかもしれません。いずれもロータリーに興味のある方向けになっています。ロータリーが何をしているかイメージしやすいつくりです。

東京江戸川中央 RC：　https://www.tec-rc.jp/

東京葛飾 RC：　https://katsushika-rc.com/

ご協力いただきましたクラブのみなさま、入会者情報をご提供いただき、誠にありがとうございました。

チーム嶋村　ガバナー月信

2022-23年度の入会者情報のまとめ

クラブにおいて会員増強のお話し合いをする際の参考資料していただければと存じます。
「職業」「紹介者との関係」はキーワードになるかもしれません。

まとめコメント：

① 入会者の多い年齢層としては、「50代」「40代」の順になっています。

② 女性の入会者の比率は13.8%となっており、3月末時点の女性会員数の割合である8.8%よりも高くなっています。

③ 入会者の多い職業は、「弁護士」「不動産仲介」「生命保険」の順となります。
職業カテゴリーとして分類すると、「士業」が最も多くなります。ついで、「金融機関関連」（支店長の交代など人事異動を含む）、「建設業関連」となります。

④ 入会者との関係で多いのは、「友人・知人」、「取引先・仕事上」のおつきあいの順となります。
「法人会・商工会議所など他団体のつながり」「青年会議所のつながり」「地域関係者・町内会」「趣味のつながり」も多くなっています。

データ：

１．情報収集の時期
2022年7月1日から2023年5月15日まで（入会日は2023年7月1日から2023年5月15日まで）

２．入会者数（任意の提供ですので、実際の人数とは合致していません。以下も同じくです）
166名

３．入会者の年齢層（小数点第2位切捨て）

	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
人数	1	20	53	60	23	9
割合	0.6%	12.0%	31.9%	36.1%	13.8%	5.4%

※最年少29歳、最年長82歳（いずれも入会当時の年齢）

４．入会者の性別（小数点第2位切捨て）

	男性	女性
人数	143	23
割合	86.1%	13.8%

５．職業
入会者の多い職業は次のとおりです。
・弁護士（9名）

チーム嶋村　ガバナー月信

・不動産仲介（8 名）
・生命保険（6 名）
職業カテゴリーとして分類すると、次のとおりです。
・士業（19 名）
・金融機関関連（17 名）
・建設業関連（15 名）
・不動産業関連（13 名）
・生命保険・損害保険関連（8 名）
・IT・情報サービス関連（8 名）
・機械製造業関連（7 名）
・食品・酒類販売関連（7 名）
上記のほか、医療・介護・福祉関連、飲食業、教育関連、観光関連、環境・産廃収集運搬・資源再生関連、商社・卸売関連などがありました。

6．紹介者との関係
入会者の多い関係は次のとおりです。
・友人・知人（33 名）
・取引先・仕事上のおつきあい（31 名）
・前任者の後任（18 名）
・法人会・商工会議所など他団体のつながり（14 名）
・青年会議所のつながり（8 名）
・地域関係者・町内会（7 名）
・趣味のつながり（7 名）
・大学や地元の後輩（6 名）
・他クラブ・他クラブ会員の紹介（6 名）
また、同業者、故人を引継ぎ入会、元会員（再入会）、親族の知り合い、クラブのサイトを見てなどもありました。

7．クラブ別の入会者数（クラブ名、一部省略）
入会者の多いクラブは、東京（12 名）、東京紀尾井町（11 名）、東京江戸川中央（9 名）、東京浅草（8 名）、東京福生（8 名）となっています。
分区ごとでは、中央分区（61 名）、北分区（26 名）、東分区（31 名）、武蔵野分区（6 名）、多摩分区（14 名）、沖縄分区（28 名）となっています。

2022-23 年度、43 クラブにご回答をいただきました。ご協力、誠にありがとうございました。

チーム嶋村　ガバナー月信

ご厚意に対し、深く感謝申し上げます

ロータリー財団マルチプル･ポール･ハリス･フェロー

1 回	岡部　安治（東京新宿）

ロータリー財団ポール･ハリス･フェロー

永井　一史（東京お茶の水）	木宮　雅徳（東京お茶の水）

米山功労者・メジャードナー

13 回	嶋村　文男（東京東江戸川）

米山功労者・マルチプル

6 回	戸澤　忠（東京東村山）
5 回	野澤　秀夫（東京東村山）
4 回	樺澤　襄（東京東村山）
2 回	山本　智治（東京東村山）　赤木　盛一（東京東村山） 北久保　隆一（東京東村山）

4 月 30 日分まで　敬称略、順不同

１年間のご愛読、誠にありがとうございました。

編集：　国際ロータリー第２５８０地区　ガバナー月信編集委員会
ガバナー月信へのお問い合わせ／コメント：　info@motoffice.jp

チーム嶋村　ガバナー月信